

## たばこ苗床の簡易化について

前原為矩・山下一夫  
(日本専売公社鹿児島たばこ試験場)

MAEHARA, T. and YAMASHITA, K.  
Simplification on the Tobacco Seed-bed.

### 1. まえがき

たばこ育苗には苗床で雨除け天幕、育苗布が主に使用され、60~70日もの長い期間を要したが、4、5年前からビニールフィルムによる育苗が普及し、育苗期間も現在では50日内外である。

最近さらに生産費と労力節減が強く要求され、苗床簡易化の一つとして発熱材料の節減に関する試験を行ったので、その概要を報告する。

### 2. 試験方法

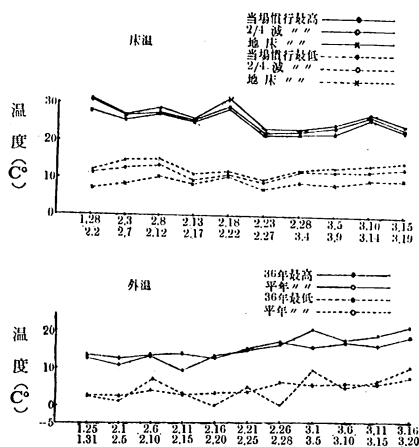
第1表 試験区別と材料用量

発熱材料 区別	親 床		子 床	
	落葉 kg	きゆう肥 kg	落葉 kg	きゆう肥 kg
當場慣行	95.0	70.0	55.0	70.0
1/4減	71.3	52.5	41.3	52.5
2/4減	47.5	35.0	27.5	35.0
3/4減	23.8	17.5	13.8	17.5
地床	0	0	0	0

以上のように5区の段階を設け、親床から子床まで材料を減じた方法と、親床は慣行法で育苗し子床のみ材料を減じた方法とにより試験した。

### 3. 試験成績及び考察

第1図



苗床育苗は気象条件、とくに最低気温に影響される

ことが多く、床面より3cm下の最高最低温度は第1図のとおりであつた。各区とも(午前9時調査)発熱材料の少なくなるにしたがい、1~2°C内外低くなつた。地床は他区に比し、最高の差より最低の差が慣行より4°C内外も低い結果となつた。

第2表 苗床期節

処理期間	区 別	発 芽			親 床		子 床		苗床 日数
		播種 月日	月日	日数	植替 月日	日数	適苗 月日	日数	
親床と 子床とも	當場慣行	1.27	2.5	9	2.22	26	3.18	24	50
	1/4減	1.27	2.6	10	2.23	27	3.19	24	51
	2/4減	1.27	2.7	11	2.24	28	3.20	24	52
	3/4減	1.27	2.8	12	2.27	31	3.24	25	56
	地床	1.27	2.10	14	2.28	32	3.27	27	59

第3表 苗床期節

処理期間	区 別	親 床		子 床		苗床 日数
		植替月日	日数	適苗月日	日数	
子床のみ	當場慣行	2.22	26	3.18	24	50
	1/4減	2.22	26	3.18	24	50
	2/4減	2.22	26	3.19	25	51
	3/4減	2.22	26	3.21	27	53
	地床	2.22	26	3.23	29	55

第2表に示すとおり、慣行法で育苗する場合、普通は50日内外の期間で本圃移植適苗に達するが、材料を減ざるとそれぞれ発芽はおくれ、慣行では8~9日で完全に発芽となるが、地床は発芽に14日を要した。なお慣行苗床の発芽は揃つたが、材料を少なくするにしたがい中央部と周囲が不均一となりやすい。慣行の親床は26日で子床への植替適期に達したが、材料を減ざるとおくれ、地床は32日を要した。植替後は気温もかなり上昇し、子床における地床の育苗期間は3日の差であるが、本圃移植苗である葉数は10~11枚になるまでは10日近くもおそく適苗となつた。この場合、2/4減までは育苗日数に差は認めなかつたが、3/4減となると6日おくれる結果となつた。

第3表は親床で慣行によつて育苗し、子床へは植替適苗を同様にして子床の出発点とした。植替後は第2表のように育苗日数に差は認められず、3/4減又は地床がわずかに3~5日多く日数を要した。

第4表 本圃移植期における苗の生育状態

処理期間	調査月日	区別	草丈	全葉数	最大葉			地上部			地下部			R/T
					長	巾	位置	生重	乾物重	生重	乾物重			
親床・とも	3.19	當場慣行	2.08	11.8	12.0	5.7	7.0	7.54	0.402	0.32	0.0275	6.84		
	3.19	〃 1/4減	2.15	11.8	11.5	6.0	7.68	20.0	0.449	0.42	0.0299	6.66		
	3.19	〃 2/4減	1.81	11.5	9.4	5.3	7.15	9.10	0.324	0.27	0.0196	6.05		
	3.27	〃 3/4減	1.89	11.8	9.7	6.0	7.55	21.0	0.371	0.30	0.0265	7.14		
子床のみ	3.27	地床	1.93	11.7	9.3	5.6	7.0	5.32	0.356	0.31	0.0275	6.38		
	3.19	當場慣行	2.08	11.8	12.0	5.7	7.0	7.54	0.402	0.32	0.0275	6.84		
	3.19	〃 1/4減	1.96	11.6	11.3	5.7	7.57	9.60	0.440	0.34	0.0291	6.61		
	3.19	〃 2/4減	1.85	11.8	10.2	5.4	7.0	7.26	0.370	0.35	0.0249	6.73		
3.22	〃 3/4減	1.67	11.3	9.7	4.8	7.0	5.68	0.358	0.32	0.0234	6.54			
3.22	地床	1.60	11.0	9.5	4.3	6.8	5.42	0.321	0.30	0.0218	6.79			

一般に本圃移植適苗とは葉数 10~11 枚とされているが、本試験も葉数を基礎に調査した結果である。苗床期節においては親・子床共 2/4 まで材料を減じても育苗日数に大差なかつたが、親・子床共材料減の 2/4 減以下が着葉数に差はなかつとも地上部、地下部が劣る結果となつた。

子床のみ材料減の場合 2/4 減までは差はなかつたが、3/4 減地床は 3 日おそく調査した結果、いずれも

第5表 心止期の生育状態

処理期間	調査月日	区別	草丈	幹経	全葉数	地上葉数	最大葉		
							長	巾	着葉
親床・とも	5.23	當場慣行	161.2	2.9	29.6	19	69.1	30.7	20
	5.23	〃 2/4減	155.4	2.8	29.6	19	70.3	29.2	20
	5.23	地床	158.2	2.8	29.2	19	70.3	29.3	20
子床のみ	5.23	當場慣行	161.2	2.9	29.6	19	69.1	30.7	20
	5.23	〃 2/4減	159.4	2.8	29.5	19	67.6	28.3	20
	5.23	地床	154.7	2.7	29.2	19	67.2	28.1	19

劣る傾向がある。

苗床期節および移植期の苗の状態においては、材料を減ずることにある程度の差はみられたが、慣行法 2/4 減地床の苗をそれぞれ本圃に移植した結果は第 5 表のとおりである。

即ち、処理した苗も慣行法の苗に比べ移植後の活着、生育に判然とした差はなく、各区共きわめて良好であつた。

草丈幹径は、材料を減ずるとにやや劣る傾向にあるが、収量と関係の深い全葉数および地上葉数は各区とも大差はなかつた。

#### 4. むすび

苗床育苗法簡易化の一段として、発熱材料の節減について試験した。

親・子床とも通し床の場合は 1/4 減まで、親床は慣行法で子床のみの場合は 2/4 減まで節減しうる。

親・子床とも通しの地床の場合は約 10 日、子床のみの場合は約 5 日育苗日数が遅延する。

したがつて、気温を考慮に入れた場合、苗床面積に多くを要しない親床は、慣行法により行ない子床のみを地床とし、移植期を目標にしてこれにまに合うように育苗する方法が実用的と考えられる。